

「みんなの力を医療の力に！」

県民みんなで支える 岩手の地域医療推進会議

～ 10年間の成果と課題 ～



I(私)



平成30年12月18日
岩手県知事 達増 拓也

1 県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議について

2 「県民総参加型」の地域医療体制づくり 県民運動の10年間の取組と成果

3 県民運動に加え、「地域医療基本法」の制定へ 岩手における地域医療の現状と課題

4 これからも県民運動の推進を！ まとめ



Walk (歩く)

過重負担により勤務医が疲弊し 更なる医師不足を招く要因に



「県民総参加型」の地域医療体制づくり②

1 県民みんなで支える岩手の
地域医療推進会議について

平成20年に策定した前々計画（岩手県保健医療計画（2008-2012））から
“**県民の役割**”を記載

（県民の役割）

- 県民は健康な生活習慣の重要性に対する理解を深めるとともに、**自らの健康は自分で守るとの認識を持ち健康管理を積極的に進めること**が求められています。
- 日頃から**信頼関係のあるかかりつけの医師を持ち**、自身の疾病と治療内容の理解を進め、医師の医学的な指示をきちんと守るなど、症状に応じた必要な医療を受けることが重要です。

（中略）

- また、本来、**医療は不確実な側面を有しており、患者自身の期待が完全に満たされるとは限らないことを認識することも大切であり、医療従事者との相互の信頼関係を構築した上で、自身の医療に関する情報の共有に努めること**も必要です。

（中略）

- **住民も医療の担い手であるという意識を持ち、地域の医療提供体制についての情報を得ながら、症状や医療機関の役割分担に応じた適切な受診を行うことは重要であり、地域医療を支える大きな役割があるという認識を持つ必要があります。**

「県民総参加型」の地域医療体制づくり③

1 県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議について

岩手における医師確保対策：「県民総参加型」の地域医療体制づくり

医師不足の悪循環を断ち切り、**地域において県民が安心して医療を受けられる**ために、岩手では、全国初の試みとして、

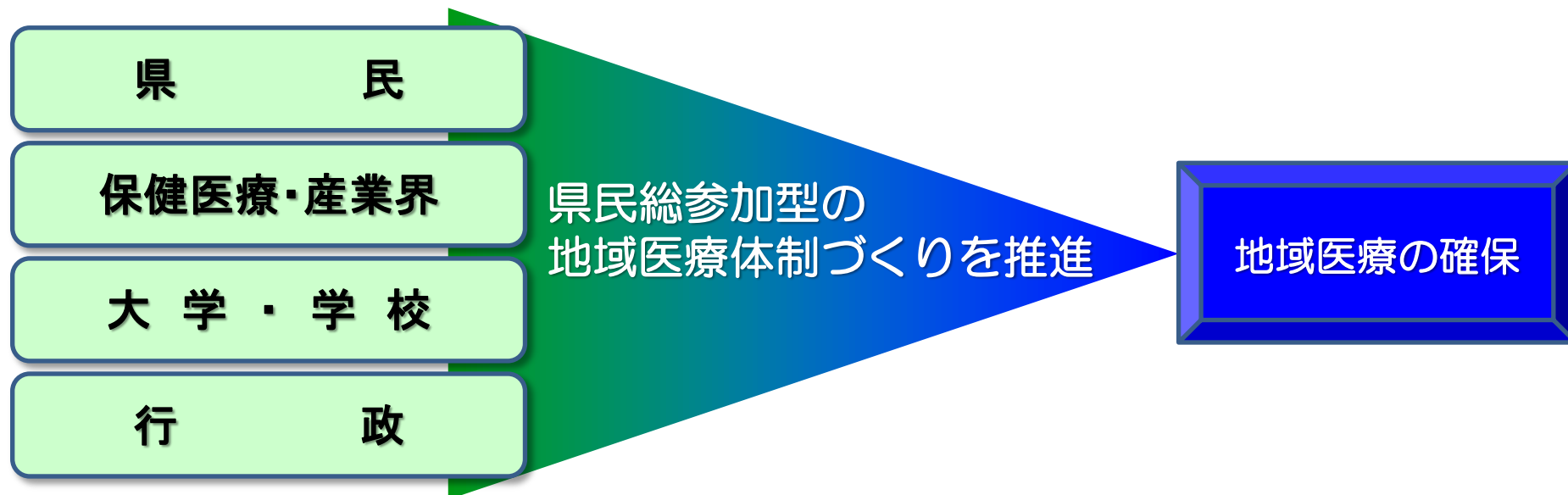
平成20年度から県内の保健・医療分野から産業界、学校関係団体、行政等の団体が参画した

「県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議」を設置し、**地域医療を支えるための県民運動**を展開

- ▶ 県民一人ひとりが地域医療を支える担い手となった**「県民総参加型」の地域医療体制づくり**に向けて、県民への普及・啓発活動を推進
- ▶ **みんなの力を医療の力に！**をスローガンに、地域医療の現状についての理解、医療機関の役割に応じた適切な受診、日々の健康管理など、県民へのメッセージを発信



県民総参加の地域医療体制づくりへ



【全国初】「県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議」設立

(平成20年11月設立、産・学・官等県内84団体が参画)

県民と各界団体と行政が一体となって運動展開

平成30年12月現在では、129団体にまで広がっている

▶ 国では

「上手な医療のかかり方を広めるための懇談会」

を設置し、平成30年10月に初会合

- ▶ 趣旨：患者・**国民が安心して必要な医療を受けるため**には、
医療提供者側の取組だけでなく、**国民の医療に関する理解**が欠かせない
- ▶ 医療のかかり方に関する普及啓発などの効果的な取組のあり方について検討
(救急医療のかかり方、かかりつけ医の活用、相談ダイヤルの活用 など)

国民運動

医療関係者

企業

行政

医療機関へのかかり方に関する国民の**意識と行動の变革**
医療機関の負担軽減に向けた具体的な取組を推進

- ポスター等による周知啓発
- イベント開催による関係機関・団体等の取組事例の展開
- 医療機関における勤務環境改善等の取組事例の展開

「医療のかかり方普及促進事業」平成31年度新規事業

県民が地域医療を支えるために

- ☆ 自らの健康は自分で守るとの認識を持ち、健康管理に努めましょう。
- ☆ かかりつけの医師を持ちましょう。
- ☆ 医療従事者と信頼関係を築き、医療に関する情報の共有に努めましょう。
- ☆ 住民も医療の担い手であるという意識を持ち、症状や医療機関の役割分担に応じて適切に受診しましょう。

このような行動や意識が求められます。

1 県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議について

2 「県民総参加型」の地域医療体制づくり 県民運動の10年間の取組と成果

3 県民運動に加え、「地域医療基本法」の制定へ 岩手における地域医療の現状と課題

4 これからも県民運動の推進を！ まとめ



A little salt (少しの塩)

いわてグラフによる広報（平成21年1月号）

上手な医療機関のかかり方

私たち一人ひとりが上手に医療機関を利用することは、地域の医療を守ることに繋がります。適切な医療機関の利用を心がけていきましょう。

- #### 1 かかりつけ医で、初期受診をしましょう！

日常の健康管理など体のことを気軽に相談できる主治医として、「かかりつけ医」を持ちましょう。風邪などの軽症の病気は、「かかりつけ医」に診てもらいましょう。
- #### 2 診療時間内に受診しましょう！

病気やケガなどの治療は、なるべく診療時間内に受診しましょう。時間内受診により医師の負担を軽減するだけでなく、専門医の診断や検査が受けられます。
- #### 3 休日受診は指定当番医を利用しましょう！

休日に具合が悪くなったなら、休日当番医で受診しましょう。救急は重症患者の治療にあたる医療機関です。安易な受診は避けましょう。

休日の当番医は、次の方法で確認できます。

○新聞 ○市町村広報 ○県公式ホームページ

いわて医療情報ネットワーク

右のQRコードで携帯電話から下記の携帯サイトへ接続できます。

<http://www.med-info.pref.iwate.jp/>
- #### 4 夜間も救急相談電話も活用できます！

子どもの急な発熱・腹痛などで困りの時には、電話相談も活用できます。症状に応じた対地や応急処置を、経験豊かな看護婦がアドバイスしてくれます。

喉痛、嘔吐、下痢、腹痛、熱咳、打撲など困ったときは電話で相談！

子ども救急相談電話

（受付時間）午後7時～午後1時（年中・深夜）

電話番号

019-605-9000

家庭は携帯電話の #8000

※携帯電話からご利用ください。FAXは、ダイヤル019-605-9000へおかけください。

電話をかけた時の019-605-9000へおかけください。

医療機関の役割分担と連携

医療機関の役割分担と連携を深める。深刻な医師不足の中で、地域の病院を守り、安心して医療が受けられるようにするためには、医療機関の役割分担と連携を進め、限られた医療資源を有効に活用していくことが大切です。

県立富古病院では、富古医師会が

休日の救急外来に応急医師を派遣するなど、地域の病院と開業医（診療所）との連携をスタート。このように医療機関が協力し連携しながら、地域医療を支えていく動きが県内全域に広がっておりあります。県民一人ひとりが地域の医療機関の役割をしっかりと理解し、「適切な受診」を心がけて地域医療を支えていきましょう。

上手に医療機関にかかると、それが私たちにできること。では、「適切な受診」とはどのようなことか。

まずは「かかりつけ医」に相談

軽症や初期治療の場合は…

開業医などへ（1次医療機関）

風邪、ケガといった軽症患者の初期治療や簡易な手術、治療を行います。

紹介

入院治療や重症の場合は…

県立病院などへ（2次医療機関）

専門の医療設備を整備して、中度から重度の患者の治療を行います。

紹介

命に関わる危険性のある場合は…

救命救急センターなどへ（3次医療機関）

高度な医療設備を整備して、生命に関わる重症患者の手術、治療を行います。

な受診を言うのでしょうか？大病院への患者の集中、これは医療機関の役割分担を知らないなどの理由で起こること、右の図のように、それぞれの医療機関が果たす役割を正しく理解することが必要です。

まず最初は身近な開業医や県立病院に紹介され、命に関わる場合は救命救急センターが担い、心筋梗塞、故や心筋虚衰などの緊急以外、左ページの内容をお心げることが、地域医療を守るための一歩となります。

私たち一人ひとりの心がけて、地域の病院を守っていきましょう。

医師を守り、医療を守る。今、私たちにできることを！

岩手のために始めよう！
自分のために始めよう！

みんなの力を医療の力に！
みんなの力を医療の力に！
キャンペーン

みんなの力を医療の力に！
みんなの力を医療の力に！
キャンペーン

平成15年度から平成21年9月までの間に県立病院では常勤医師が83人減少しています。これは県立大船渡病院と宮古病院を合わせた医師数に相当する数。深刻な医師不足の中で、現地の医師たちは憔悴し、地域医療の維持が難しい状況となっています。医師を守り、医療を守るために、私たちにできることは何か、みなで一緒に考え、岩手のために始めよう、自分のために始めよう。

特集 地域医療

広報誌などを用いて、取組を詳しく説明

新聞広報（平成21年2月）



みんなの力を
医療の力に！
キャンペーン



いわての医療を守っていくために、
いま、みなさんの力が必要です。

今、岩手の地域医療は、医師不足を始めとしたさまざまな課題を抱えています。その中で、病状者が救急車を利用したり、自分の都合で休職や待日に地域の救急病院を利用するなどの安易な発想行動は、重症者等への医療に支障を及ぼすだけでなく、救急車の過剰稼働を招き、医師不足をもたらす弊害の一つになっていくとも指摘されています。この課題を克服し、安心して医療を受けられる環境を守るためには、県民の皆さんの協力が不可欠です。それは、難しいことではありません。「自分の健康に気をつけること」、「かかりつけ医を持つこと」、「症状に応じて適切な病院を利用すること」など、すぐできることはあります。そして、皆さん自身も「医療の強い手」であるという意識を持って、自らの行動を見直していただきたいのです。

県では、昨年11月に「県民みんなで作る岩手の地域医療推進会議」を設立しました。県内の医療関係団体や企業、学校関係団体等が一体となり、岩手の地域医療を支える取り組みを県民運動として進めていくと取り組んでいます。岩手が一歩前進し、医療を支えていくことは、皆さん一人ひとりのかけがえのない命を守ることに繋がります。「みんなの力を、医療の力に」みんなで協力し、岩手の医療を支えていきましょう。

道庁長官

岩手のために始めよう！ 自分のために始めよう！

岩手県

新聞やテレビを用いて、 取組を県民へ広くアピール

あなたも一緒に医療を考えてみませんか？

「県民みんなで作る地域医療シンポジウム」開催！

平成21年2月10日（水） 盛岡市民文化ホール
13:00～14:00（開場12:30）

入場無料

◆開催地 「地域医療の確保に向けた岩手県の取組について」 盛岡市 盛岡市民会館
◆開催時間 「ともに支えあふ医療とは何か」 盛岡市 盛岡市民会館 13:00～14:00
◆シンポジウム 「「治す医療」から「治し支える医療」へ」 盛岡市 盛岡市民会館 13:00～14:00
◆お問い合わせ先 盛岡市保健福祉部健康増進課 地域医療推進課 019-629-5406

問い合わせ先
岩手県保健福祉部健康増進課
TEL.019-629-5406



みんなの力を医療の力に!

県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議

岩手県

二戸圏域用リーフレット（平成25年度作成）

かかりつけ医を持ちましょう

安心して地域で暮らすために

- 最初に、かかりつけ医を受診をしましょう！
- できるだけ診療時間内に受診しましょう！
- 休日診療は指定当番医を利用しましょう！
休日の当番医は、次の方法で確認できます
○新聞 ○市町村広報 ○県公式ホームページ
○二戸医師会ホームページ
(http://www.iwate.med.or.jp/ninohe/)
- 夜間は「こども救急相談電話」を活用しましょう！
こども救急相談電話
【受付時間】午後7時～午後11時(年中無休)
【電話番号】019-605-9000
または 局番なしの#8000

健康のことで気になったら、お近くのかかりつけ医へ

◆かかりつけ医のメリット

- 家族の病状・病歴、健康状態を把握しているので、もしもの時に適確に対応してくれます。
- 入院や検査などが必要な場合、適切な病院・診療科を指示、紹介してもらえます。
- 食事等、日常の健康管理のアドバイスをしてもらえます。
- 介護保険で利用できるサービスの中には医師の指示が必要なものもあります。

◆地域の診療所は…

番 号	診 療 所 名	診 療 科 目	電 話 番 号	備 考
【二戸市】				
1	小原内科医院	内科	23-3410	石切所字船場
2	おりそ内科・循環器クリニック	内科、呼吸器科、循環器科	22-2251	福岡字長瀬
3	川村医院	内科、産婦人科、リハビリテーション科	23-3252	福岡字横丁
4	管整形外科皮膚科クリニック	整形外科、皮膚科、リウマチ科、ペインクリニック科、リハビリテーション科	23-7311	石切所字川原
5	高藤産婦人科医院	産婦人科	23-2505	石切所字森合
6	すがわら消化器内科	内科、消化器科	23-2879	福岡字川又
7	千葉耳鼻咽喉科・小児科医院	小児科、耳鼻咽喉科	23-2009	福岡字八幡下
8	二戸クリニック	内科、外科、泌尿器科	25-5770	石切所字森合
9	二戸市国民健康保険金田一診療所	内科、外科	27-2205	金田一字馬場
10	二戸市国民健康保険浄法寺診療所	内科、小児科、外科、整形外科	38-2021	浄法寺町小池
11	藤田内科	内科、小児科	38-2772	浄法寺町植田
12	よこもり眼科クリニック	眼科	22-2230	堀野字長瀬
【一戸町】				
1	いちのへ内科クリニック	内科	33-2701	高善寺字野田
2	奥中山高原クリニック	内科	35-2011	奥中山字西田子
3	小鷹谷診療所	内科	34-2118	小鷹谷字中屋敷
4	松井内科医院	内科、呼吸器科、アレルギー科、糖尿病科、消化器科、泌尿器科、リハビリテーション科	33-2201	一戸字本町
【軽米町】				
1	小野寺クリニック	内科、皮膚科、泌尿器科	46-2822	軽米第3地割
2	中村医院	内科、外科	46-2131	軽米第8地割
3	むらかみ医院 いたみのクリニック	内科、消化器科、外科、皮膚科、肛門科、麻酔科	48-1500	上笠原15地割
【九戸町】				
1	岩手県立二戸病院附属九戸地域診療センター	内科、外科	42-2151	伊保内第7地割

◆我が家のかかりつけ医・緊急連絡先は…

医療機関名・緊急連絡先名	電 話 番 号	メモ（診療日・診療時間、住所、病名、薬など）

リーフレットやポスターにより「かかりつけ医を持つこと」や「上手な医療機関のかかり方」などについて啓発

県民運動ポスター（平成23年度作成）

いわての医療に、
思いやりの輪を
広げよう。

「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えれば、「お大事に」といったわりの言葉が返ってくる。お互いを思いやり、感謝する気持ち、いわての医療を元気づける力があります。いわての医療を元気づける力があります。

上手な
医療機関のかかり方

かかりつけ医で、
初期受診をしましょう！

診療時間内に
受診しましょう！

休日受診は指定当番医
利用しましょう！

夜間は
「こども救急相談電話」も
活用できます！

こども救急相談電話
019-605-9000 または局番なしの#8000
【受付時間】午後7時～午後11時(年中無休)

みんなの力を
医療の力に！
キャンペーン

岩手県

まずは、私達自身から、思いやりの気持ちを声にするのを。

【問い合わせ先】 岩手県保健福祉部医療推進課 TEL.019-629-5416 FAX.019-626-0837

こども救急ミニガイド（平成21年度作成）

こどもの具合が悪い時の症状の見分け方



症状	こんな時は 直ぐにお医者さんへ (夜間・休日でも受診)	こんな時は しばらく様子を見ましょう (夜間・休日なら翌日受診)
発熱	<ul style="list-style-type: none"> ○高い熱があつて下痢や嘔吐がある ○顔色が悪く、呼吸も苦しそう ○けいれんが起きて治まらない ○生後4ヶ月未満の乳児 	<ul style="list-style-type: none"> ○37.5℃～38℃程度の熱で機嫌が良い ○顔色も良い ○食欲もある
	<p>⚠️ [家庭でできる手当て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○水分を十分に補給 ○アイスノンなどで冷やす ○汗をかいたら、その都度着替えを 	
けいれん(ひきつけ)	<ul style="list-style-type: none"> ○10分以上続き、止まりそうにない ○1日に2回以上繰り返す ○意識が15分以上戻らない ○嘔吐を繰り返す ○けいれんした後に手や足にマヒが残る ○発熱の時の初めてのけいれん 	<ul style="list-style-type: none"> ○意識がはっきりしていて、呼びかけに反応する

こども救急ミニガイド

～ こどもの具合が急に悪くなった時のために ～



岩手県

みんなの力を
医療の力に！
キャンペーン

子育て世代用リーフレットを作成し、子どもの病気への対応や救急病院の受診の仕方等に関する啓発

こども救急ミニガイド（平成21年度作成）



上手なお医者さんへのかかり方

◆ 必ず持っていくもの

- 母子健康手帳
- 保険証
- 診察券
- こどもの状態が分かるもの（例：体温を記録したメモや、気になる便・おしっこなど）
- 飲んでいる薬や薬の名前がわかるもの（お薬手帳があれば持参）

◆ もって行くと便利なもの

- 着替えやタオル、替えオムツ、ティッシュペーパーなど
- 待ち時間のための、お気に入りのオモチャや絵本など
- 医師の説明を記録するための筆記用具やメモ用紙など

◆ お医者さんから聞かれること（わかりやすく伝えましょう）

- どんな症状ですか？（熱の有無、気になる症状、食欲の有無、排便の様子など）
- 症状はいつからですか？（○月○日○時ごろからなど）
- 今までに大きな病気にかかったことはありますか？
- 飲んでいる薬はありますか？
- 薬や食べ物のアレルギーがありますか？
- 家族にも同じような症状がありますか？
（子どもの様子が一番よく知っている人が行きましょう）

休日や夜間の相談先

こども救急相談電話に相談

- ◆ 夜間に、電話でこどもの病気や事故のことで相談ができる窓口です。経験豊かな看護師がアドバイスします。
- ◆ 年中無休／午後7時から午後11時まで
- ◆ 電話番号は

019-605-9000 又は局番なしの#8000

※#8000はダイヤル回線電話、IP電話、PHSからは利用できません。

お医者さんの探し方

インターネットの**いわて医療情報ネットワーク**で検索

- ◆ 「いわて医療情報ネットワーク」は、県内の病院・診療所の様々な情報が見られるホームページです。
- ◆ 医療機関の所在地、診療科目など様々な条件で、目的にあった病院・診療所を検索できます。
- ◆ アドレスは

<http://www.med-info.pref.iwate.jp/>

家庭用メモ

◆ かかりつけのお医者さん（主治医）

- 医療機関名 _____
- 電話番号 _____
- 診療日・診療時間 _____

◆ 緊急の場合の医療機関

- 医療機関名 _____
- 電話番号 _____
- 診療日・診療時間 _____

脳卒中予防県民大会（平成30年度）

岩手県脳卒中予防県民大会 2018

～いわて健康幸福宣言 県民みんなで健康になろう！～

日時 平成30年 6月6日(水)

13:15～15:30 (開場12:45～)

入場無料

会場 アイーナ(いわて県民情報交流センター)

7階 小田島組☆ほーる

◆ 基調講演(13:20～)

『脳卒中とその予防』

～岩手県民としての対策を含めて～

岩手医科大学 神経内科・老年科 石橋 靖宏 先生



◆ 特別講演(14:30～)

『働き盛り世代への健康投資は地域を活性化する』

～健康経営施策の検証を通じて～

東京大学 政策ビジョンセンター

データヘルス研究ユニット 特任教授 古井 祐司 氏



◆ 健康寸劇(15:05～)

「えさすおどめ」と「ときわ保育園児」による

脳卒中予防寸劇



総合司会 古舘 友華(テレビ岩手アナウンサー)

※ 当日アンケートをお答えの方へ
減塩対策冊子「いわて健康」など
プレゼントします(300本限り)

■ 関連イベントとして、会場前ブースで関係団体等が参加者の健康づくりを応援します。

【問い合わせ・参加申込み】

岩手県保健福祉部 健康課(岩手県脳卒中予防県民会議事務局)

電話 019-629-5468 / Fax : 019-629-5474 E-mail : AD0003@pref.iwate.jp



主催：岩手県脳卒中予防県民会議・岩手県

後援：岩手医科大学、岩手県医師会、日本脳卒中協会、岩手県予防医学協会、岩手県対がん協会、

(学研) 岩手県国民健康保険団体連合会、岩手県栄養士会、全国健康保険協会岩手支部、岩手県商工会議所連合会、

テレビ岩手、IBC岩手放送、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、NHK盛岡放送局、岩手日報社、岩手労働局、

大塚製薬株式会社

県内各地での市民講座やセミナー等による各疾病等に関する知識向上と、健康維持活動促進の啓発

気仙圏域市民講座（平成27年度）

第9回 気仙がんを学ぶ市民講座
気仙圏域各市町で開催！

「乳がんを治す
前立腺がんを治す」

参加無料

【大船渡会場】

日時:平成27年12月21日(月)18時30分～20時30分(講演19時00分～)

会場:大船渡市総合福祉センター 大会議室

対象:気仙地区にお住まいの方

【陸前高田会場】

日時:平成27年12月17日(木)17時30分～19時30分(講演18時00分～)

会場:陸前高田市コミュニティホール 大会議室

対象:気仙地区にお住まいの方

【住田会場】

日時:平成27年12月18日(金)18時00分～20時00分(講演18時30分～)

会場:住田町農林会館 多目的ホール

対象:気仙地区にお住まいの方

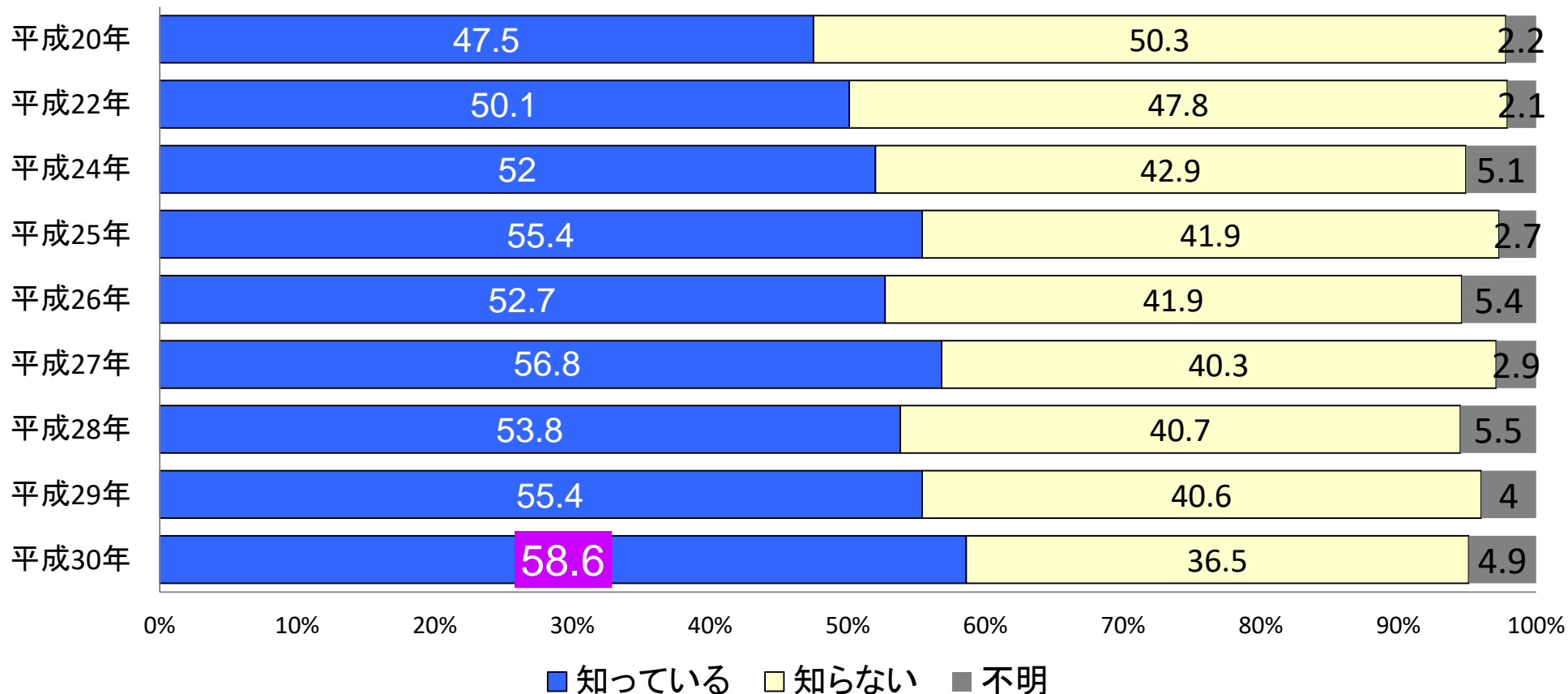
平成30年県の施策に関する県民意識調査結果（H30.1～2月実施）

▶ 県民の暮らしにとって重要と考える項目（全46項目）

**第1位 「適切な医療体制」
（9年連続 第1位）**

【設問】 大きな病院と診療所（開業医）の役割分担について知っていますか。

医療機関の役割分担認知度



平成20年の 47.5% から、平成30年の 58.6% に 11.1ポイントアップ

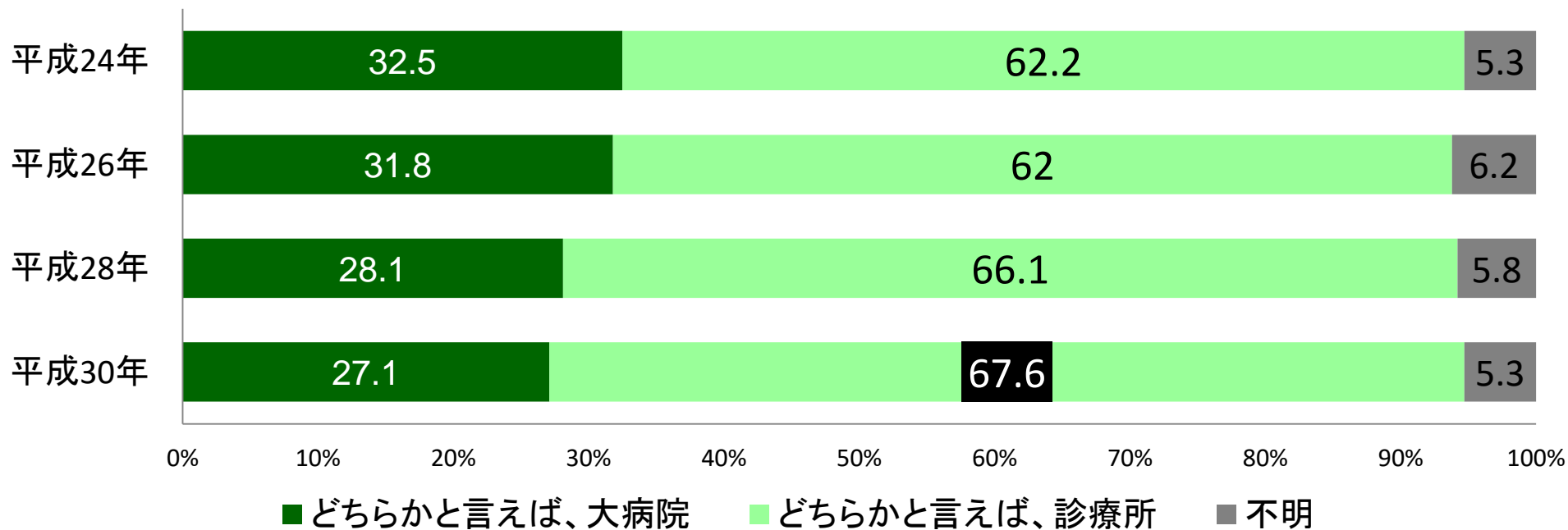
出典：H20、22：「医療と健康に関する県民意識調査」（岩手県保健福祉部）

H24、26、28、30：「県民生活基本調査」、H25、27、29：「県の施策に関する県民意識調査」（岩手県政策地域部）

※ 選挙人名簿から調査対象を抽出しているため、H29年調査から、新たに18-19歳が対象に加わった。

【設問】 病気やケガなどで医療機関を受診するとき、どのようにしていますか。

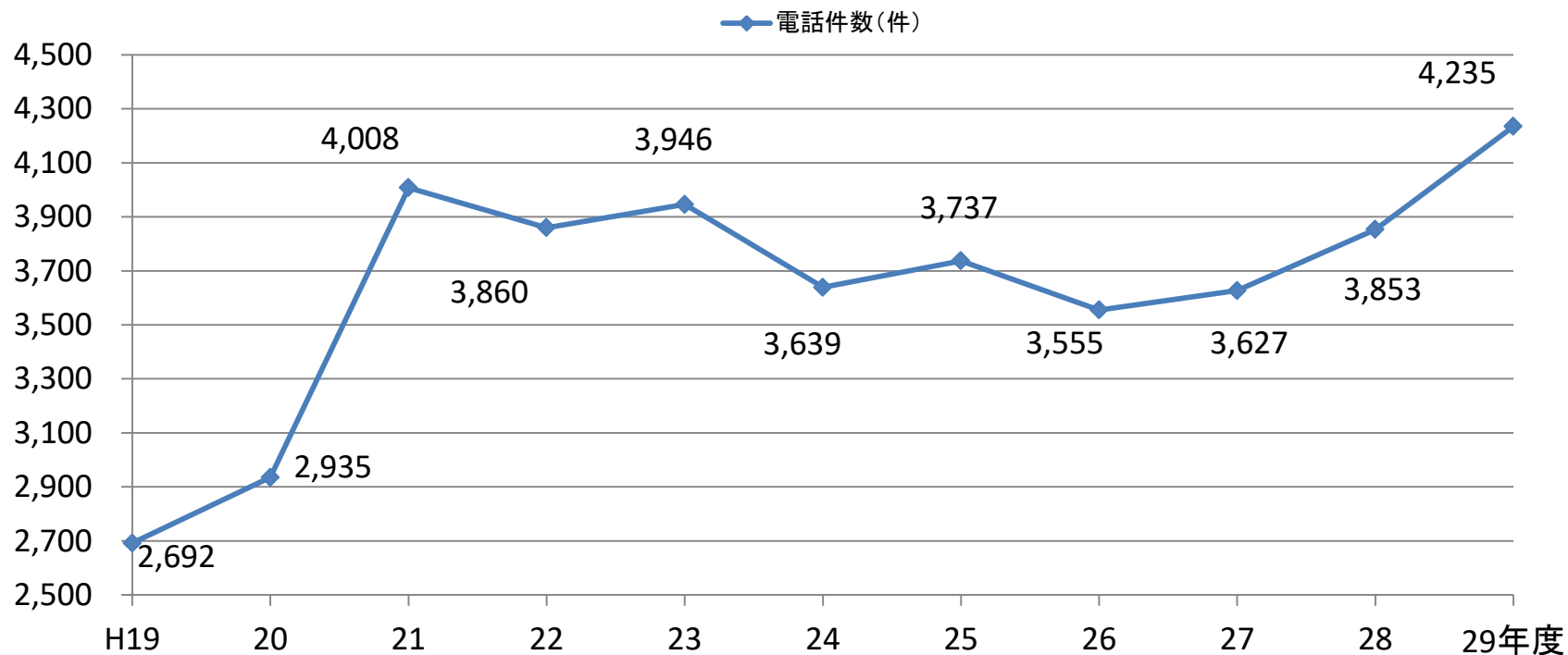
受診するときに、どちらかと言えば、診療所で受診する



平成24年の 62.2% から、平成30年の 67.6% に 5.4ポイントアップ

出典：H24、26、28、30：「県民生活基本調査」

こども救急電話相談の利用件数



県民運動開始前（19年度）の2,692件から、開始後（21年度）に4,008件に増加

その後、増減を繰り返し、平成29年度は、4,235件（最高件数）



みんなの力を
医療の力に!
キャンペーン

自分の健康を守って、 地域の医療を支えよう。



地域の医療は、私たちの健康を守ってくれる岩です。

いざという時に、医療の現場が役割を果たせるように、私たち一人ひとりにも、できることがあります。

食生活や適度な運動を通じた健康的な心身づくりと不調を重症化させない迅速で適切な受診。

自分の健康を、自分できちんと管理すること。

それが、みんなの大切な医療を守る第1歩です。

岩手県

問い合わせ先 岩手県保健福祉部医療政策室
TEL.019-629-5492 FAX.019-626-0837

1 県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議について

2 「県民総参加型」の地域医療体制づくり
県民運動の10年間の取組と成果

3 県民運動に加え、「地域医療基本法」の制定へ
岩手における地域医療の現状と課題

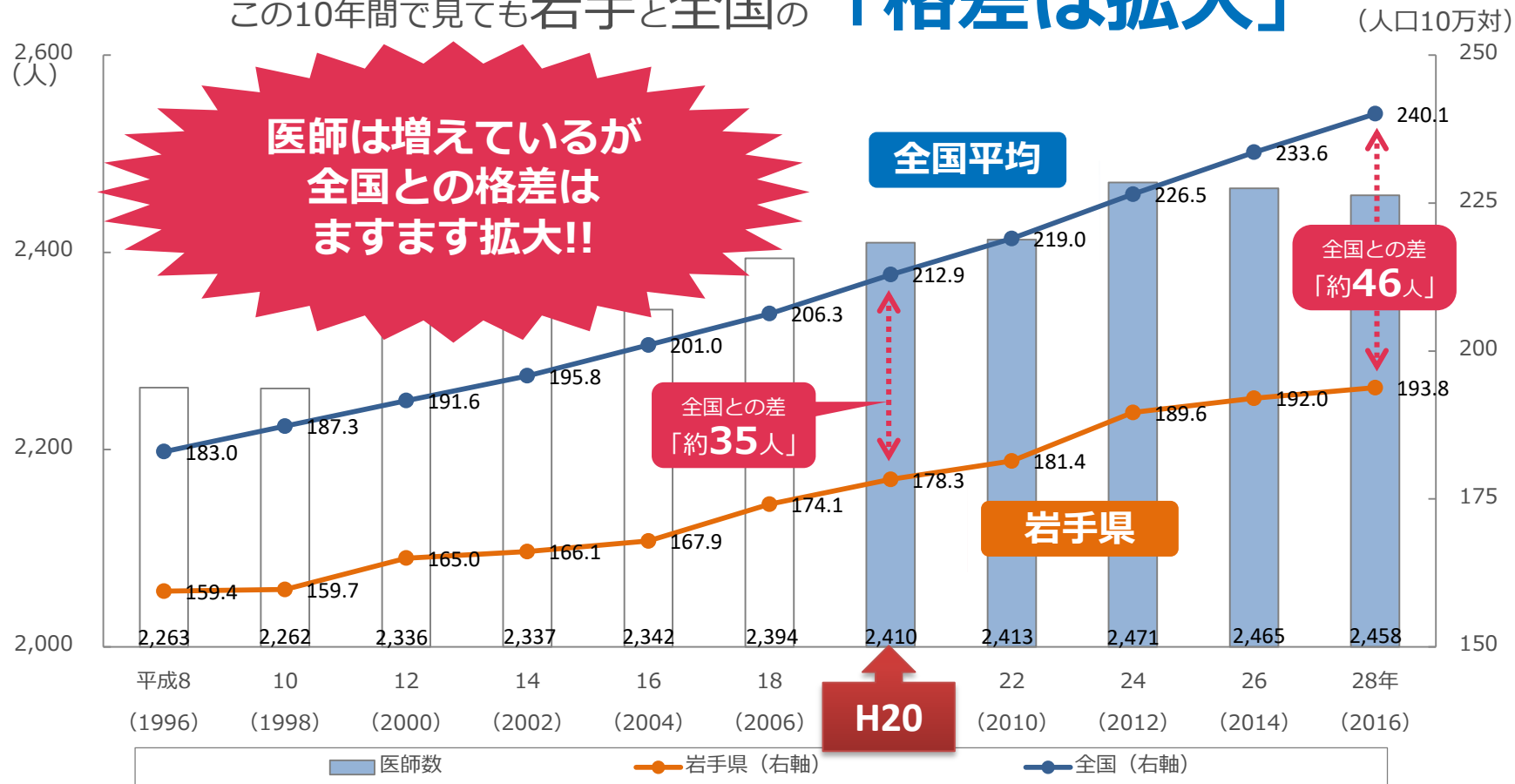
4 これからも県民運動の推進を！
まとめ



Together with (一緒に)

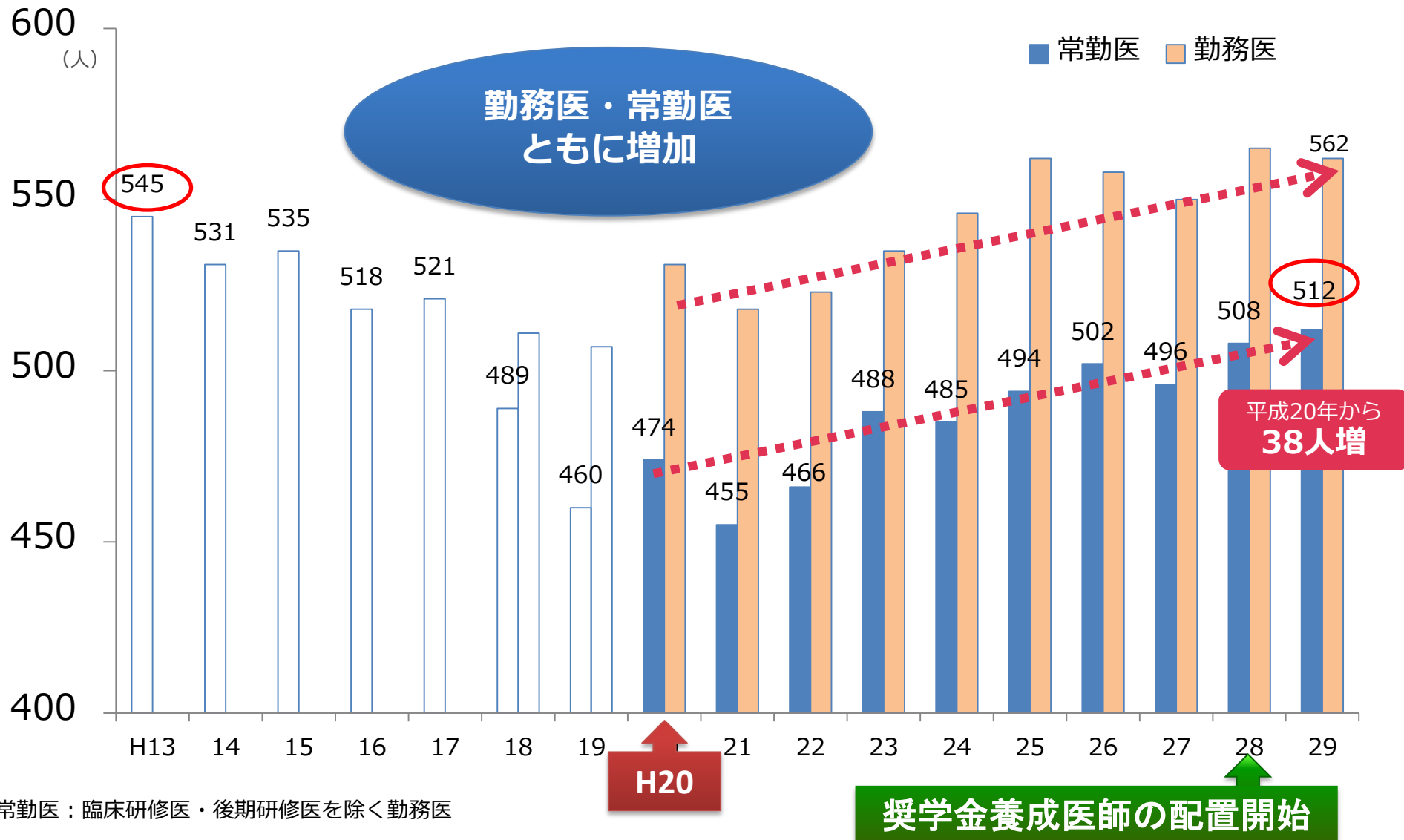
- ▶ 医療施設に従事している**医師数**は、**「増加傾向」**
- ▶ しかし、人口10万に対する医師数を全国と比較すると、

この10年間で見ても**岩手と全国の「格差は拡大」**



出典：「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）〔各年12月31日現在〕
備考：医師数は、医療施設に従事している医師数

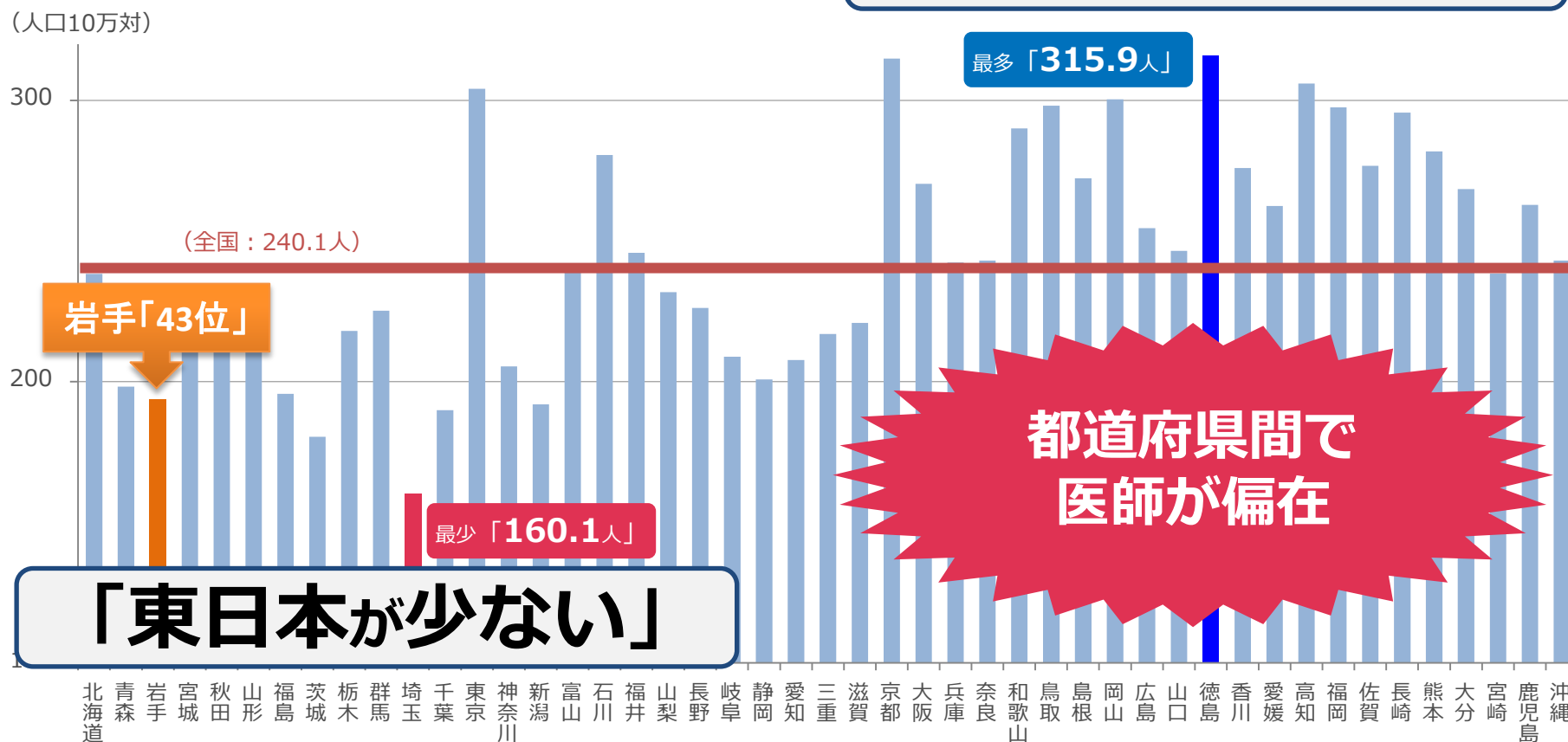
▶ 県立病院全体における勤務医・常勤医は、この10年間で**着実に増加**



医師の不足・地域偏在の現状③

- ▶ 医師数を人口10万人当たりで見ると「西日本が多く」、「東日本が少ない」傾向
- ▶ 最多の徳島と最少の埼玉では「約2倍」の格差

「西日本が多く」



出典：「平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査」(厚生労働省) [平成28年12月31日現在]

備考：医師数は、医療施設に従事している医師数 25

- ▶ **医師確保**をはじめ、**県民総参加型**で**地域医療を支える取組**など、
地域医療を守るために**様々な取組を実施**

各都道府県でも、
奨学金制度、医師の勤務環境改善、キャリア形成支援 などの取組を実施

- ▶ 医師確保の継続的な取組や新たな取組にも着手しているが、岩手の医師数は
「全国との格差」が拡大
医師が不足・偏在している状況では、
県独自での取組に**限界**

地域医療崩壊の危機を克服し、
地域医療を再生するための根本的な解決には至らない

地域医療の現場は、医師の不足・地域偏在等により、「地域医療崩壊」の危機的状況にある。

医師の地域偏在を根本的に解消するには 全国レベルでの施策が必要

「地域医療基本法」(仮称)の制定により、医師の不足・地域偏在の解消を！



いま、岩手の、
そして日本の地域医療は
崩壊の危機！に
さらされています。



岩手県

岩手県知事
達増拓也

医師の不足と偏在の
解消が急務です！

岩手県では、日本の医療の未来を守るために

地域医療基本法

(仮称)

の制定を提言しています。

現在、地域医療は、医師の不足と地域偏在という危機的な状況の中において、現場の医師達の献身と志によって支えられています。

しかし、今後、高齢化による医療需要の増大等によって地域医療を支える医師達が、現状よりも過剰な負担や過酷な勤務にさらされることになれば、地域医療は崩壊しかねません。本来、住民がその居住する地域で、必要ときに適切な医療を受けられることが、地域における医療のあるべき姿です。

医師の地域偏在を根本的に解消し、地域医療のあるべき姿を実現するためには、国全体で地域医療を守る仕組み、そして、地域医療に携わることによって医師が成長し、経験を積むことにも繋がる仕組みが必要です。

岩手県が提言する「地域医療基本法(仮称)」は、①医師の計画的な養成、②適正な配置、③医師の処遇の適正・研修の充実の3つの施策に目を挙げて取り組むことを主眼とし、地域医療再生のグランドデザインを定めるものです。

現在、国でも医師の偏在解消について議論されていますが、国全体で地域医療を守るという視点のもと、地域医療の実態を踏まえた、より実効性のある施策が必要です。

1 県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議について

2 「県民総参加型」の地域医療体制づくり
県民運動の10年間の取組と成果

3 県民運動に加え、「地域医療基本法」の制定へ
岩手における地域医療の現状と課題

4 これからも県民運動の推進を！
まとめ



Exercise (運動)

〔長期ビジョン〕基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら
お互いに**幸福**を守り育てる希望郷いわて



政策推進の基本的な考え方

「岩手の幸福に関する指標」研究会から示された幸福に関する12の領域を基に、「健康・余暇」、「家族・子育て」、「教育」、「居住環境・コミュニティ」、「安全」、「仕事・収入」、「歴史・文化」、「自然環境」の8つの政策分野と、全体を下支えする「社会基盤」、「参画」からなる10の政策体系を構築

- 推進会議の設立**
医師不足の悪循環を断ち切るため、岩手では、全国初の試みとして、平成20年度から県内の保健・医療分野から産業界、学校関係団体、行政等の団体が参画した
「**県民みんなで支える岩手の地域医療推進会議**」を設置し、**地域医療を支える**ための**県民運動**を展開
- 取組内容及び成果**
リーフレット配布や**ポスター掲示**、**シンポジウム開催**等様々な取組を実施
医療機関の役割分担認知度が11.1ポイントアップするなど、10年間の取組成果が出ている。
- 医師不足の現状及び対応**
一方で、医師数の全国格差は広がり、医師の不足・偏在を解消するためには、**県民運動**と全国レベルの施策「**地域医療基本法（仮称）**」の制定を両輪として進めていく必要がある。

地域医療の
あるべき姿！

地域において県民が安心して医療を受けられること。

私たちにできることはたくさんあります。
一人ひとりの意識・行動を変えることで、
地域の医療を支える力になります。

これからも、皆さんと、県民一人ひとりが
「医療の担い手」であるとの考えのもと、
県民総参加型の地域医療体制づくりに向けた
県民運動を展開し、地域医療の再生を！



ご清聴、
ありがとうございました。



そばっち(c)わんこきょうだい

